

感應寺へ願書差上置候由被仰、同廿三日御持參被成候、御取次明石新藏殿被仰候ニは、此願書の義は、上野御執當楞伽院江御届被成候様ニと被仰候ニ付、則楞伽院様江半兵衛御供ニ被召連御出被成、段々被仰候處、御合點の上、又候彈正少弼様江御出被成、右願書被差上候得ば、御留置被成、明廿四日窺ニ罷出候様被仰候候、依之翌廿四日五佛院様則半兵衛御供ニ而、明日被仰候通御伺ニ罷出候由御申上候得バ、私共右願之通被仰付候間、御月番堀丹後守様江參リ、御帳面ニ付置候様ニと、内山貞右衛門殿被仰渡候、依之直ニ丹後守様江御出被成、御帳面ニ御附被成候、翌廿五日右の爲御禮地主共三人御供ニ被召連、五佛院様彈正少弼様へ御出被成、御取次山本奎右衛門殿江右の御禮被仰上、地主共三人御帳ニ付罷歸り申候而、以前の通表御門前茶屋町ニ取立、唯今迄數拾ヶ年以來繁昌仕來候、右半兵衛より當名主迄六代名主役義無滯相勤來り候、

〔料理茶屋取立願書寫〕天保十三壬寅年三月十九日御書付、端々料理茶屋渡世替被仰出候、以前迄、谷中茶屋町ニ料理茶屋渡世致居候もの左之通、

谷中天王寺表門前新茶屋町 松五郎店 東屋吉五郎 同店 金子屋長右衛門 善吉店 大津屋文藏 同店 岡村屋久五郎 善右衛門店 越前屋六右衛門 左兵衛店 福島屋佐吉 傳左衛門店 木村屋總吉 和平店 越中屋常吉 佐兵衛店 成田屋孫三郎 同店 島村屋淺五郎

同所總持院門前 善右衛門店 萬屋たき後見久兵衛

右同斷煮賣臺屋と唱候者左の通

谷中天王寺表門前新茶屋町 長次郎店 田川屋作次郎 同店 武藏屋熊次郎 茂吉店 駿河屋七郎兵衛 谷中町 喜八店 越後屋金次郎

〔寛天見聞記〕享和の頃、淺草三谷ばしの向に、八百善といふ料理茶屋流行す、深川土橋に平清大音寺前に田川屋、是等は文化の頃より流行せし料理屋也、或人の嘶に、酒も飲あきたり、いざや八百